

陳舜臣さんを語る会通信

NO.56 Dec. 2021

発行 兵庫県明石市北朝霧丘2-8-34

橘雄三方「陳舜臣さんを語る会」

Tel. 078-911-1671

編集 「陳舜臣さんを語る会通信」編集委員

発行日 2021年12月20日

“ものがたり”三部作、『ものがたり 史記』『ものがたり 唐代伝奇』『ものがたり 水滸伝』

“ものがたり”三部作、『ものがたり 史記』『ものがたり 唐代伝奇』『ものがたり 水滸伝』は、初出、1973年初めから、約2年間、中国古典シリーズⅠ「史記」(73.1.5~6.29)、Ⅱ「唐代伝奇」(73.7.6~12.28)、Ⅲ「水滸伝」(74.1.4~11.1)の順で、『週刊朝日』に連載されました。初刊本は、『史記』(朝日新聞社 1974年1月)、『唐代伝奇』(同 1974年5月)、『水滸伝(上、下)』(同 1975年3月、4月)です。なお、文庫版ではそれぞれ、『ものがたり〇〇』と改題されています。(編集委員 橘雄三)

《1.『ものがたり史記』》

史書のなかの史書。二千年の昔、悲劇の歴史家司馬遷は、現れては消えていった無数の人々の想い、恨み、願いを後世に伝えるためにこの本を遺した。中国の古典を、わかりやすく、よりおもしろく語り直す三部作の第一弾。



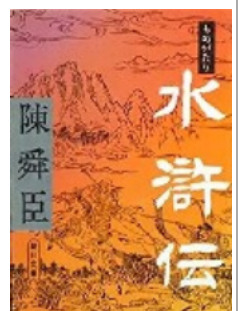
《2.『ものがたり唐代伝奇』》

物語のなかの物語、「伝奇」。唐の時代に創作されてのち、多くの人々に愛され続けてきた悲劇、活劇、怪奇譚の数々から選りすぐった十七篇の伝奇物語集。「枕中記」「杜子春」などなじみの話も。



《3.『ものがたり水滸伝』》

竜虎山伏魔殿から煙となって散った百八魔王は、六十余年後、梁山泊に拠って腐敗しきった権力を敵に暴れ回る。豪勇義侠の士が繰り広げる血と汗と涙の壮大なロマン。中国古典の世界を、わかりやすく、面白く語り直す、シリーズ第三弾。



『ものがたり水滸伝』「読者へのことば」から引用します
傍線は編集委員の加筆

『水滸伝』は講談として、中国の庶民に耳から親しまれていたので、文人が文章にしたのである。いうまでもなく、大部分がフィクションだが、その「種」になった史実はあった。

『宋史』の「侯蒙列伝」に、
「宋江、京東に寇す。蒙、上書して言う、江、三十六人を以て齊魏に横行し、官軍数万、敢て抗する者無し、其の才、必ずや人に過ぎん、今、清溪に盗起る、江を救して方臘を討たしめ、以て自ら贖わしむるに若かず。帝曰く、蒙、外に居りて君を忘れず、忠臣なりと。…」

とある。宋江という者が三十六人を率いて暴れ、官軍数万を以てしても鎮圧できなかつた。盗賊とはいえずぐれた人物であろうから、帰順させて、宋江に方臘を討たせてはどうかと、侯蒙が進言し、皇帝はその策をよろこんだというのである。

じつさいの宋江も、政府軍に降つたようだが、はたして方臘討伐に手柄を立てたかどうか、正史には記述がない。だが、民間の物語は、宋江以下三十六人

の反政府活動を、三倍にふくらませて、百八人の豪傑を活躍させた。史書に名をのせたのは宋江一人だけだが、物語作家は丹念に一人一人に名前とニックネームをつけたのである。

『水滸伝』の豪傑たちは、礼教に束縛されず、あまり上品ではないが、まるで腕白小僧のようにあばれまわつた。束縛を受けることの多かつた庶民は、これら豪傑たちに心から拍手を送つた。この物語は、中国の大衆の夢につながっている。日本の読者に、中国人の夢を読み取ってほしいとおもう。

『水滸伝』補足■明代の長編小説。作者は施耐庵。全百二十巻。宋末の「大宋宣和遺事」に見える群盗宋江らの物語を發展させ、梁山泊に集まつた豪傑百八人の興亡を描いている。原型を伝える百回本のほか金聖嘆編集の七十回本がある。なお、七十回本は、百八人、豪傑勢揃いのところで終わっている。百二十回本では、政府軍に降つた梁山泊軍が方臘(浙江省に起こつた叛乱の指導者)討伐に成功する。だが、それまでに多くの豪傑が戦死し、杭州に凱旋したころ、残つた将領はわずか三十六人であつたとしている。

天罡星(てんこうせい)三十六人
 席次 あだ名・姓名

- 1 呼保義・宋江(そうこう)
- 2 玉麒麟・盧俊義(ろしゅんぎ)
- 3 智多星・呉用(ごよう)
- 4 入雲龍・公孫勝(こうそんしょう)
- 5 大刀・関勝(かんしょう)
- 6 豹子頭・林冲(りんちゅう)
- 7 霹靂火・秦明(しんめい)
- 8 双鞭・呼延灼(こえんしゃく)
- 9 小李広・花栄(かえい)
- 10 小旋風・柴進(さいしん)
- 11 撲天鵬・李応(りおう)
- 12 美髯公・朱全(しゅどう)
- 13 花和尚・魯智深(ろちしん)
- 14 行者・武松(ぶしょう)
- 15 双鎗將・董平(どうへい)
- 16 没羽箭・張清(ちようせい)
- 17 青面獸・楊志(ようし)
- 18 金鎗手・徐寧(じょねい)
- 19 急先鋒・索超(さくちよう)
- 20 神行太保・戴宗(たいそう)
- 21 赤髮鬼・劉唐(りゅうとう)
- 22 黑旋風・李逵(りき)
- 23 九紋龍・史進(ししん)
- 24 没遮欄・穆弘(ぼくこう)
- 25 插翅虎・雷横(らいおう)
- 26 混江龍・李俊(りしゅん)
- 27 立地太歳・阮小二(げんしょうじ)
- 28 船火児・張横(ちようおう)
- 29 短命二郎・阮小五(げんしょうご)
- 30 浪裏白跳・張順(ちようじゅん)
- 31 活閻羅・阮小七(げんしょうしち)
- 32 病閻索・楊雄(ようゆう)
- 33 拚命三郎・石秀(せきしゅう)
- 34 両頭蛇・解珍(かいちん)
- 35 双尾蝎・解宝(かいほう)
- 36 浪子・燕青(えんせい)
- 37 神機軍師・朱武(しゅぶ)
- 38 鎮三山・黃信(こうしん)
- 39 病尉遲・孫立(そんりつ)
- 40 醜郡馬・宣贊(せんざん)
- 41 井木犴・郝思文(かくしぶん)
- 42 百勝將・韓滔(かんとう)
- 43 天目將・彭玘(ほうき)
- 44 聖水將・單廷珪(ぜんていけい)
- 45 神火將・魏定国(ぎていこく)
- 46 聖手書生・蕭讓(しょうじょう)
- 47 鉄面孔目・裴宣(はいせん)
- 48 摩雲金翅・欧鵬(おうほう)
- 49 火眼狻猊・鄧飛(とうひ)
- 50 錦毛虎・燕順(えんじゅん)
- 51 錦豹子・楊林(ようりん)
- 52 轟天雷・凌振(りようしん)
- 53 神算子・蔣敬(しょうけい)
- 54 小溫侯・呂方(りよほう)
- 55 賽仁貴・郭盛(かくせい)
- 56 神医・安道全(あんどうぜん)
- 57 紫髯伯・皇甫端(こうぼたん)
- 58 矮脚虎・王英(おうえい)
- 59 一丈青・扈三娘(こさんじょう)
- 60 喪門神・鮑旭(ほうきよく)
- 61 混世魔王・樊瑞(はんずい)
- 62 毛頭星・孔明(こうめい)
- 63 独火星・孔亮(こうりよう)
- 64 八臂那吒・項充(こうじゅう)
- 65 飛天大聖・李袞(りこん)
- 66 玉臂匠・金大堅(きんたいけん)
- 67 鉄笛仙・馬麟(ばりん)
- 68 出洞蛟・童威(どうい)
- 69 翻江蜃・童猛(どうもう)
- 70 玉幡竿・孟康(もうこう)
- 71 通臂猿・侯健(こうけん)
- 72 跳澗虎・陳達(ちんだつ)
- 73 白花蛇・楊春(ようしゅん)
- 74 白面郎君・鄭天寿(ていてんじゅ)
- 75 九尾龜・陶宗旺(とうそうおう)
- 76 鉄扇子・宋清(そうせい)
- 77 鉄叫子・樂和(がくわ)
- 78 花項虎・龔旺(きようおう)
- 79 中箭虎・丁得孫(ていとくそん)
- 80 小遮欄・穆春(ぼくしゅん)
- 81 操刀鬼・曹正(そうせい)
- 82 雲裏金剛・宋万(そうまん)
- 83 摸着天・杜遷(とせん)
- 84 病大虫・薛永(せつえい)
- 85 金眼彪・施恩(しおん)
- 86 打虎將・李忠(りちゅう)
- 87 小霸王・周通(しゅうとう)
- 88 金錢豹子・湯隆(とうりゅう)
- 89 鬼臉児・杜興(とこう)
- 90 出林龍・鄒淵(すうえん)
- 91 独角龍・鄒潤(すうじゅん)
- 92 旱地忽律・朱貴(しゅき)
- 93 笑面虎・朱富(しゅふ)
- 94 鉄臂膊・蔡福(さいふく)
- 95 一枝花・蔡慶(さいけい)
- 96 催命判官・李立(りりつ)
- 97 青眼虎・李雲(りうん)
- 98 没面目・焦挺(しょうてい)
- 99 石將軍・石勇(せきゆう)
- 100 小尉遲・孫新(そんしん)
- 101 母大虫・顧大嫂(こだいそう)
- 102 菜園子・張青(ちようせい)
- 103 母夜叉・孫二娘(そんじじよう)
- 104 活閃婆・王定六(おうていろく)
- 105 剣道神・郁保四(いくほうし)
- 106 白日鼠・白勝(はくしょう)
- 107 鼓上蚤・時遷(じせん)
- 108 金毛犬・段景住(だんけいじゅう)

彼らが闘う北宋末期の三大奸臣は蔡京(さいけい)、高俅(こうきゅう)、童貫(どうかん)です。

なお、あだ名、姓名について、『ものごと水滸伝』と他の図書で表記が異なるときは、前者を優先しました。

水滸伝

陳舜臣

CHEN SHUN-CHEN ものがたり

中公文庫

『ものがたり史記』

『ものがたり唐代伝奇』

各章の題	『ものがたり史記』登場人物ほか
天道、 是か非か	伯夷、叔齊 殷の紂王(ちゅうおう)、妲己(だっき) 周の武王
覇者への道	周の幽王、褒姒(ほうじ) 重耳(ちゅうじ 晋の文公)
呉か越か	臥薪嘗胆 呉王闔閭(こうりょ)、夫差 伍子胥(ごししよ) 越王句踐 范蠡(はんれい)
范蠡は生きる	越を去り大富豪となった范蠡の次男救出作戦、失敗!
汨羅に消えた	屈原 憂国の情を歌う「離騷」
三寸の舌	蘇秦、張儀ら遊説の士にとって三寸の舌こそ命
掘出し物	「奇貨居くべし」 呂不韋(りよふい) 子楚(のち秦の荘襄王) 趙姫(子が始皇帝に)
困った母親	呂不韋は秦の宰相に 趙姫は太子妃→王后→太后に
夜明け前の 暗い道	秦の宰相・李斯 韓非 將軍・王翦(おうせん) 荊軻(けいか)
我が天下	天下統一 秦王政、始皇帝に徐福
大崩壊	始皇帝臨終 長男・扶蘇 末子・胡亥 李斯 趙高
力は山を抜き	項羽と劉邦 四面楚歌
大風起こりて	劉邦帝位に 漢の高祖
歴史を書く	司馬遷

各章の題	『ものがたり唐代伝奇』登場人物ほか
無双伝	王仙客と朝臣の娘劉無双が幾多の出来事を乗り越えて結ばれる物語。しかし、その過程で多くの人命が失われる
ちんちゅうき 枕中記	盧生という青年が、趙の邯鄲で、道士呂翁から枕を借りて寝たところ、立身出世し、富貴を極める。それは、枕頭の黍(きび)飯が煮えないほどの短い間の夢であった
しょうほう 焦封伝	焦封は退官直後、妻を亡くし、憂さを酒とバクチで紛らわせていた。そんな焦封と美しい女性に化けたメス狸々の話
白猿伝	南朝梁の將軍欧陽紇(おうようこつ)は陣中に夫人を伴っていた。夫人はさらわれ、怪物白猿との間に子をもうける
郭翰と織女	天上の女・織女と地上の男・郭翰(かくかん)の愛の物語
柳毅伝	湖南湘浜の人・柳毅と洞庭湖の竜君の美しい娘の物語
離魂記	官僚張鎰(ちよういつ)の娘・倩娘(せいじょう)と居候・王宙は駆け落ちをする。五年経ち、許しを請いに戻ってみると…
長恨歌伝	白居易「長恨歌」、陳鴻「長恨歌伝」 玄宗と楊貴妃の顛末
こんろんど 崑崙奴	表題は東南アジア出身の奴隷召使いのこと。神変不思議のわざを持つ崑崙奴・磨勒(まろく)の活躍を描く
日本人 韓志和	もと倭国の人、衛士の韓志和は彫木に巧みであった。彫った鳥は、腹にゼンマイを仕込み、三百メートルも飛んだ
杜子春	芥川龍之介「杜子春(とししゅん)」は【杜子春伝】の翻案
謝小娥伝	父と夫を盗賊に殺された謝小娥は、仇を討とうとするが、手がかりは、夢に出てきた父と夫の言う十二文字だけ
南柯太守伝	淳于芬(じゅんうふん)は酒に酔い横になったが、夢うつに、槐安(かいあん)国王の使者と名乗る者が現われ、馬車に乗ると、槐の巨木の根もとの洞穴に入ってしまった
古鏡記	王度は奇士侯生に仕えていた。侯生が臨終のとき、王度に百邪を遠ざけるという古鏡を贈った。その古鏡が主人公
東城老父伝	賈昌(かしよう)少年は鳥語を聞き分けることができた。それが玄宗皇帝の目にとまり宮中に召し入れられた
三夢記	白楽天の実弟・白行簡(はくこうかん)の「三夢記」は、夢にまつわる不思議な物語を三つ紹介している
李娃伝	李娃(りあ)は長安の色まち平康里の一流妓女であった

汨羅の岸に立つ屈原



『ものがたり史記』

中国では正史と認められている史書が二十五あり、「二十五史」と呼ばれている。一九一一年には、まだ正史が書かれていないので、二十五史のなかで、『明史』が最も新しい。最も古いのが『史記』である。その意味で、『史記』は中国の歴史の筆頭に位置する。私は二十五史のなかの白眉は、なんといっても『史記』であるとおもう。中国人はこの書のなかに、人間のあらゆる典型と、出来事のパターンとが述べ尽されていると信じてきた。日本人が中国人を理解するには、中国人のあらゆる典型がちりばめられている『史記』を読むことが、いちばん正道であると同時に近道でもあるにちがいない。

『ものがたり唐代伝奇』

唐は「世界帝国」と呼ばれてもよかった。だからこそ、遣唐使船で留学生として渡った阿倍仲麻呂が、そのまま唐の朝廷に仕えることもありえた。正倉院御物からもうかがわれるが、西方のにおいも濃厚であった。シルクロードを通じてさまざまな文物・仏教の信仰を含め、唐にもたらされた。まさにロマンの時代であった。そんな時代に、ロマンの文学、いわゆる「伝奇」が盛んに書かれたのはとうぜんであろう。私たちは唐代伝奇のなかに、唐で暮らした人たちの感情の高まり、息吹きなどをかんじる。

杜子春



芥川龍之介